

東京都町田市「在宅ケアのあり方研究会」

1-1 研究会発足の経緯と目的

在宅ケアのあり方研究会は、地域ケアシステム調査研究のモデルフィールド地域を模索していた(財)ダイヤ高齢社会研究財団が、関連研究者より東京都町田市を候補地として推奨され、同時に町田市在住の石毛鏡子氏（当時：飯田女子短期大学教授、現参議院議員）を紹介いただいたことに端を発している。

石毛氏からは、平成5年11月の「男と女で考える高齢化社会」（主催：在宅福祉を考える会）シンポジウムに参加を奨められ、そこで同会代表の佐藤矩子氏と出会い、具体的な研究会のイメージづくりが始められた。その後、石毛氏のコーディネイトも加えた準備が進められ、後述の研究会メンバーが構成され、6年10月に研究会が発足した。

研究会設置の目的は、広く町田市全体の地域ケアシステムを念頭に置きながらも、町田市高齢社会総合計画（平成6年10月）で設置が構想された第7エリア（玉川学園・南大谷・本町田「高齢者在宅サービスセンター」）を住民の立場から見て魅力あるものにするため、様々な角度から研究を進めていくこととした。

研究会の開催は毎月2回（第1・3金曜）の定期開催とし、会場は町田市内の公共施設を利用した（せりがや会館・健康福祉会館・公民館・わくわくプラザ）。